

チンゲンサイ

アブラナ科：中国

栽培暦

月	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業	露地栽培・トンネル栽培																																			

■栽培のポイント

1. アブラナ科以外の作物と輪作を行う。
2. 作型にあった品種を選択する。
3. 発芽を揃える。

■**品種・種子量** 周年栽培向けには、晩抽性の品種で青帝、青美などがある。夏季栽培に向く耐暑性の強いものは、長陽、青都、夏賞味、青帝などがある。

種子量はa 当り 600～80 ml。

■**播種期** 当冷涼な気候を好み（生育適温は15～20℃）、夏季には発芽の不揃いや軟腐病、葉先枯れが発生しやすく作りにくい。春巻きでは早播きほど抽だいの危険が大きくなる。安全な播種期は桜が開花した後である。夏播きでは病害虫の発生が多く、また、高温、乾燥による生育の停滞や障害の発生が多いので、マルチや遮光資材を利用して生産安定を図る。一方、秋播きでは、播種期が遅くなり、温度が低下すると、十分な株張りにならない。ポリまたビニールでトンネル被覆をしない場合は、播種晩限は、最低気温が15℃を下回らない時期を目安とする。

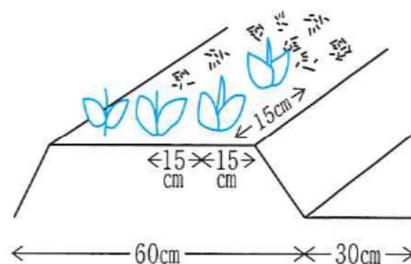
■**畑の準備** 堆肥などを十分施し土づくりに努めれば、埴壤土から砂土までよく生育する。また、アブラナ科の野菜であることから、キャベツやはくさいと連作すると根こぶ病の発生が多くなるので、アブラナ科以外の作物と輪作する。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	500kg	—kg	pH6.0～6.5
苦土石灰	10	—	成分量
そさいエース	25	—	窒素 1.5kg
			リン酸 2.5
			加里 1.3



- 施肥** 生育期間が短いため、施肥は全量基肥とする。窒素、リン酸、加里とも a 当り 1.5kg 程度を播種の 7 日前に全層に土とよく混和する。窒素の施用量が多いと葉先枯れが発生するので、前作の残効が多い場合は減肥する。
- 播種** 床幅を 60～120cm、高さを 10cm、通路を 30cm とする。播種前に十分かん水をしておくことが発芽を揃えるコツである。目安として栽植距離は通気性、光線の強弱を考え、夏季は 15×15cm、春と秋には 13×13cm 程度とし、点播する。播種後、種がかくれる程度に覆土し、鎮圧してかん水を行う。
- 間引き** 本葉 2～3 枚を目安に、夏季では 7～10 日目に、春と秋には 15～20 日目に行い、1 本立ちにする。
- マルチ栽培** マルチの効果は高く、春と秋の低温期には透明マルチ、夏季の高温期にはシルバーマルチをすることによって生育が促進される。また、降雨による泥のはね上がりも防止できる。
- トンネル被覆** 夏播き栽培では、高温、乾燥の防止と虫よけのため遮光資材のトンネル被覆を行う。6 月播種では遮光率 10～20% 程度、7～8 月播きでは 20～30% の寒冷しゃなどが適している。また、春と秋の低温期には寒害をさけるために、ポリまたはビニールのトンネル被覆をすると良い。この場合、昼間トンネル内が 15℃ 以上になったら換気をする。
- 病害虫の防除** 病害虫の発生は、はくさいとほぼ共通しており、病気ではべと病、軟腐病、白斑病、黒斑病が多く、害虫ではコナガ、アオムシなどが発生しやすい。
- 収穫** 草丈が 20～25cm（重さで 150～200 g）程度になったら、株元から切り取り収穫する。収穫までの日数は夏季で 35～40 日、春季と秋季で 45～60 日程度かかる。